

# 開発進む花粉症根治薬

党神奈川  
県議団

## 研究施設で現状聞く

横浜市

公明党神奈川県議団(鈴木秀志団長)は先ごろ、独立行政法人理化学研究所(理研)の統合生命医科学研究センター(横浜市鶴見区)を訪れ、アレルギー疾患の治療薬研究・開発の現状などについて話を聞いた。

◇ “国民病”とも呼ばれ

るスギ花粉症。世界トップレベルの免疫・アレルギーに関する研究成果を持つ理研は、これまで医薬品による対症療法が主だった花粉症の、根本治療薬の開発に取り組んできた。

その結果、動物実験段階でアナフィラキシーショック(強く急激なアレルギー反応)の危険性がないワクチンの開発に成功。2010年には鳥居薬品株式会社に(本社・東京都)に特許を移譲し、新薬の製造・販売をめざした研究・開発を進めているという。

公明党はアレルギー対策の充実を一貫して推進してきた。国会質問や署名運動などにより、花粉症などのアレルギー疾患対策関連予算は大幅に増額。治療研究施設も整備されるなど、国家的な取り組みが大きく前進した。

こうした経緯を踏まえて鈴木団長は、「アレルギー疾患の根治に向けた研究の促進や成果の活用、治療薬の早期承認を進める環境整備など、国と連携してさらなる対策の充実に努めたい」と述べた。



統合生命医科学研究センターの取り組みについて説明を受ける党神奈川県議団